

無線博士の三大陸漂流記

中村 康久(NTTドコモ)

工学博士。NTTドコモで米国、フランス、ブラジルの
オフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

[第5回]

フランス編 ~ブルターニュの神のお告げ~

イラスト:西井美保

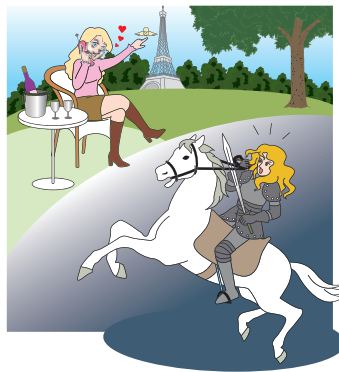
フランス西北部ブルターニュ地方にある人口5千人の港町ペロスギレックに、2歳の娘を連れて家族3人で移り住んだのは1986年であった。当時電電公社の横須賀通信研究所の研究者であった私は、人材交流をしていたフランス郵電省の中央研究所(CNET)に幸いにも一年間の滞在を許されたのである。

日本の東北地方によく対比されるブルターニュ地方は、今でこそフランスの誇るTGV(新幹線)が開通し便利になったが、当時はパリから電車を乗り継いで5時間以上かかる過疎地であった。遠い昔アーサー王の伝説で名高いケルト民族が支配しローマ帝国と対峙したこの地は、ブレトン語という言葉、多くの神話やそれにまつわる古城、史跡、修道院が残るミステリアスな地方である。カンヌやモナコのような陽光溢れる南フランスとは対極といっている。

さて初めての海外生活で最も苦しんだのは、フランス語での同僚との社交であった。渡航前に一年ほどフランス語学校に通い多少は話せるつもりになっていたが、同僚が主催する深夜まで続く夕食会が難儀だった。付け焼刃のフランス語では、機関銃のようなフランス人同士の会話についていけるわけも無く、まして家族はお手上げであった。忍耐の数時間である。“フランス人と打ち解けたかったら、まずはともかく一緒に食事してワインを飲みなさい”との教を胸に秘めつつも、招待状が届くと憂鬱な毎日が始まるのだった。

CNETには印象に残る研究者がいた。コロンビア出身の彼女は4カ国語をこなす才媛で音声認識の研究者だが、聴力が無い。彼女は読唇術ですべての会話を理解していた。読唇術はSF映画の中では見たことがあったが、実際これには驚いた。井の中の蛙が世界の広さを実感した瞬間である。

当時まだケータイは世界的にもアナログ方式しか実用化されておらず、同じ欧州でも、国毎に方式が異なり利便性が悪かった。実際フランスでは、当時ケータイは一般にはほとんど利用さ



れていなかった。そんな中CNETには、次世代のデジタル携帯電話システムの基本コンセプト研究チームがあった。この研究が、その後世界を席卷した第2世代デジタル携帯電話システムGSM(Global System Mobile)のベースとなる。CNETの研究チームは、欧州他国の研究機関と共同で、欧州標準を作成するために日夜奮闘していた。ほとんどの国々が陸続きで、電車で数時間も乗れば国境を越え

てしまう欧州では、必然的にコンセプトから仕様の標準化と相互接続性を充分意識して設計された。これが結果として、機器コスト削減や設備導入の容易性をもたらし、欧州以外の大陸、すなわちアフリカやアジア、最近では北米や南米でも広くGSMが採用導入される結果になった(現在では210カ国、地域にて運用中)。日本の標準方式PDCが日本に留まったのと対照的である。GSMで採用されたSIM方式(ICカードを使った加入者情報管理)は、第3世代方式FOMAでも採用されるなど、GSMの世界的成功はケータイの進化、発展に大きく寄与することになったのである。

このように先進的なシステムの基本コンセプトが、あの暗く寂しい神話の半島ブルターニュで生み出されたことを思うと何だか不思議な気分になる。

中世の15世紀フランス、オルレアンに生まれた17歳の少女ダルクは、英国との100年戦争で疲弊した祖国の危機を守るようにとの神のお告げを受け立ち上がった。そして最後は火炙りによる死刑で命を落とした。

500年後、ブルターニュに棲息する神は再び目を覚まし、欧州の英知に召集をかけた。そして彼らはGSMという世界に誇るケータイシステムを生み出した。

今日17歳の美しいパリ達は、重い剣の代わりにカラフルで洒落たケータイを肌身離さず持ち歩き、セーヌの河畔で音楽をダウンロードし恋を語る。ジャンヌダルクは生まれたのが500年ばかり早過ぎたのだろう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp